

## シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像音響科

科目名	キャリアガイダンス（688）				教科区分	一般教育科目
					必須 / 選択	必須
担当教員	実務経験内容					
e-mail						
連絡先	1号館2階 職員室					
開講期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単位数	-	2	-	-		
科目のねらい・到達目標						
社会で働くためには知っておくべきルールやマナーが多い。社会に出ても恥ずかしくない知識を学んでいく。						
授業形態	演習	教室	155教室	補助教員		
各種参考資料を配布しながら、講義していく。必要に応じてマナー検定や漢字検定などの、基礎知識の勉強も行っていく。また、筆記テストなどに対応すべく、基礎学力をあげるために、Thanksドリルも授業のはじめに20分ほど行う。						
教科書 教材	なし					

## 授業計画・内容

●授業時間：2単位時間／回						
【2年次前期】						
1～2回 この授業について						
3～4回 社会人のマナーの基礎知識						
5～6回 社会人のマナーの基礎知識						
7～8回 マナー検定 勉強						
9～10回 マナー検定 勉強						
11～12回 社会人の心得						
13～14回 社会人の心得						
15～16回 まとめ						
【2年次後期】						
17～18回 前期の復習						
19～20回 スタディサプリ						
21～22回 漢字検定 勉強						
21～24回 漢字検定 勉強						
25～26回 社会人のお金の管理について						
27～28回 社会事情 勉強						
29～30回 キャリアプラン構想						
31～32回 まとめ						

評価コード	11					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100点を満点とし、筆記試験を60点、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点とする。</li> <li>・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。</li> <li>・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。</li> </ul>					

## シラバス (授業計画書)

文化教養専門課程 映像音響科

科目名	プレゼンテーション (541)				教科区分	専門教育科目
					必須 / 選択	必須
担当教員	実務経験内容					
e-mail	シナリオライターとして培ってきた企画・制作の経験を活かし、人前でプレゼンテーションする技法を教育する。					
連絡先	1号館2階 職員室					
開講期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単位数	-	4	-	-		
科目のねらい・到達目標						
イベントや映像分野の制作にあたっての企画書を作成し、人前でプレゼンテーションが実施でき、さらに発表内容を高度にしている。						
授業形態	演習	教室	155教室	補助教員		
プレゼンを作成し、人前でプレゼンテーションを1人1人にさせて、行えるようにしていく。						
教科書 教材	なし					

## 授業計画・内容

●授業時間：2単位時間/回						
【1年次前期】						
1～8回 プレゼンテーションの基本						
9～16回 伝えるための表現法						
17～28回 動画コンテンツの制作						
29～32回 発表						
【1年次後期】						
33～40回 情報の選別						
41～48回 動画コンテンツの制作						
49～56回 発表						
57～64回 説明と描写						
□						

評価コード	11					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100点を満点とし、筆記試験を60点、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点とする。</li> <li>・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。</li> <li>・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。</li> </ul>					

## シラバス (授業計画書)

文化教養専門課程 映像音響科

科目名	文章論 (916)				教科区分	専門教育科目
					必須 / 選択	必須
担当教員	実務経験内容					
e-mail	長年シナリオライターとして携わってきた経験を活かし、シナリオなどの文章の実作技法を教育する。					
連絡先	1号館2階 職員室					
開講期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単位数	-	2	-	-		
科目のねらい・到達目標						
イベント制作、映像制作分野に必要とする企画書や台本などの文章作成に対して、それぞれの分野に相応しい言語表現や文章作成能力を養う。						
授業形態	講義	教室	155教室	補助教員		
映像業界のシナリオを作成できるまでの知識を基本的に講義形式で行っていく。必要にときに課題を提示し、課題を作成していく。シナリオを最終的に各自で作成させ、提出させる。						
教科書 教材	関連資料を適宜配布					

## 授業計画・内容

●授業時間：2単位時間/回						
【1年次前期】						
1～4回 言語表現の基礎						
5～10回 文章の実作技法						
11～16回 シナリオ作成の基礎						
【1年次後期】						
17～18回 前期の復習						
19～24回 シナリオ作成の応用						
25～32回 各テーマに基づいた企画書類作成						

評価コード	3					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。</li> <li>・追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。</li> <li>（1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。</li> <li>（2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。</li> <li>・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。</li> </ul>					

## シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像音響科

科目名	情報メディア (771)				教科区分	専門教育科目
					必須 / 選択	必須
担当教員	実務経験内容					
e-mail						
連絡先	1号館2階 職員室					
開講期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単位数	-	2	-	-		
科目のねらい・到達目標						
映像・音響スタッフとして働くにあたり、情報の知識は必要不可欠である。 情報、特にコンピュータの知識を学ぶことで、最新機材への理解を手助けすることを目標とする。						
授業形態	講義	教室	155教室	補助教員		
前半は映像音響処理技術者試験、サウンドレコーディング技術認定試験の対策授業を行う。 後半は各資料を配布しながら、授業を行っていく。						
教科書 教材	2022映像音響処理技術者資格認定試験問題集 2022サウンドレコーディング技術認定試験問題集					

## 授業計画・内容

●授業時間：2単位時間／回						
【2年次前期】						
1回 前期授業について説明						
2～3回 映像音響処理技術者試験 対策						
4～5回 映像音響処理技術者試験 対策						
6～7回 映像音響処理技術者試験 対策						
8～9回 サウンドレコーディング技術認定試験 対策						
10～11回 サウンドレコーディング技術認定試験 対策						
12～13回 サウンドレコーディング技術認定試験 対策						
14～16回 前期復習、前期まとめ						
【2年次後期】						
17～18回 前期の復習						
19～20回 社会とコンピュータの関わり合い						
21～22回 情報リテラシーについて						
21～24回 業界で気を付けなければならない情報セキュリティ						
25～26回 収録メディアの種類						
27～28回 将来の機材の展望						
29～30回 機材間のネットワークの基礎知識						
31～32回 後期まとめ						

評価コード	3					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。</li> <li>・追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。</li> <li>（2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。</li> </ul> </li> <li>・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。</li> </ul>					

## シラバス (授業計画書)

文化教養専門課程 映像音響科

科目名	コンピュータ実習2 (918)				教科区分	専門教育科目
					必須 / 選択	必須
担当教員	実務経験内容					
e-mail	カメラマンとしての活動を行っており、その業務の一環として、画像・映像の編集を行っている。					
連絡先	1号館2階 職員室					
開講期	1年次	2年次	3年次	4年次	これらの知識を活かし、コンピュータ実習の指導を行う。	
単位数	-	4	-	-		
科目のねらい・到達目標						
実際にコンピュータを用い、画像編集ソフト「Photoshop」の習得し、映像編集ソフト「After Effects」、「Premiere Pro」の習得を目指す。						
授業形態	実習	教室	166実習室	補助教員		
前回の復習を最初に行い、次に進めていく。例題を出し、それをこなしていき操作方法を深めていく。ある程度できるようになったら、課題を与え、提出させる。						
教科書 教材	Premiere Pro & After Effect いますぐ作れる！ムービー制作の教科書[改訂3版]					

## 授業計画・内容

●授業時間：2単位時間/回						
【2年次前期】						
1～4回 Photoshopについて						
5～8回 写真編集						
9～12回 写真編集						
13～16回 写真切り抜き						
17～20回 写真切り抜き						
21～24回 テクスチャ						
25～28回 ロゴ						
29～32回 まとめ						
【2年次後期】						
33～36回 After Effect、Premiere Proについて						
37～40回 編集ツール説明						
41～44回 編集の基本操作						
45～48回 編集の基本操作						
49～52回 加工編集について						
53～56回 テロップ作成						
57～60回 音の編集について						
61～64回 まとめ						

評価コード 13

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点にする。</li> <li>・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。</li> <li>・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。</li> </ul>
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## シラバス (授業計画書)

文化教養専門課程 映像音響科

科目名	映像制作 (165)				教科区分	専門教育科目
					必須 / 選択	選択
担当教員	実務経験内容					
e-mail	放送業界で制作を経験してきた。演出論で培った知識・技術を活かし教育する。					
連絡先	1号館2階 職員室					
開講期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単位数	-	12	-	-		
科目のねらい・到達目標						
映像を制作するにあたり、企画から撮影・編集まで一貫して体験することで、その運用の難しさを学ぶ。また必要に応じて取材交渉も行わなければならないため、コミュニケーション技法も学ぶ。						
授業形態	実習	教室	アートスタジオ	補助教員		
本科の特別実習を通して、学生自らがそのイベントの運営方法も考え、映像制作を実践していく。企画から制作までの過程に関わっていく。						
教科書 教材	なし					

## 授業計画・内容

●授業時間：2単位時間／回						
【2年次前期】						
1～6回 前期授業について説明						
7～24回 作品制作1						
25～42回 作品制作2						
43～60回 作品制作3						
61～70回 特別実習1 準備 実施						
71～80回 特別実習2 準備 実施						
81～90回 特別実習3 準備 実施						
91～96回 まとめ						
【2年次後期】						
97～102回 後期授業について説明						
103～108回 特別実習4 準備 実施						
109～114回 特別実習5 準備 実施						
115～132回 特別実習6 準備 実施						
133～150回 特別実習7 準備 実施						
151～168回 特別実習8 準備 実施						
169～186回 特別実習9 準備 実施						
187～192回 まとめ						
評価コード	13					

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点にする。</li> <li>・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。</li> <li>・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。</li> </ul>
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## シラバス (授業計画書)

文化教養専門課程 映像音響科

科目名	イベント制作 (780)				教科区分	専門教育科目
					必須 / 選択	選択
担当教員	実務経験内容					
e-mail	イベント音響・照明として、システムの構築・運用を担当。その際の知識・経験を活かして、実技面を指導する。					
連絡先	1号館2階 職員室					
開講期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単位数	-	12	-	-		
科目のねらい・到達目標						
イベントを制作するには具体的にはどのような行程が必要になるか、実際に企画段階から運営までを通してその方法を体験しながら学んでいく。						
授業形態	実習	教室	NKCイベントホール	補助教員		
本科の特別実習を通して、学生自らがそのイベントの運営方法を考え、実行していく。 場合によっては企画からイベントに関わっていく。						
教科書 教材	なし					

## 授業計画・内容

●授業時間：2単位時間／回						
【2年次前期】						
1～6回 前期授業について説明						
7～24回 作品制作1						
25～42回 作品制作2						
43～60回 作品制作3						
61～70回 特別実習1 準備 実施						
71～80回 特別実習2 準備 実施						
81～90回 特別実習3 準備 実施						
91～96回 まとめ						
【2年次後期】						
97～102回 後期授業について説明						
103～108回 特別実習4 準備 実施						
109～114回 特別実習5 準備 実施						
115～132回 特別実習6 準備 実施						
133～150回 特別実習7 準備 実施						
151～168回 特別実習8 準備 実施						
169～186回 特別実習9 準備 実施						
187～192回 まとめ						

評価コード

13

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点にする。</li> <li>・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。</li> <li>・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。</li> </ul>
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------